

## トレーニー派遣（1日目）3月15日 水曜日

金沢大学・富山大学・富山県立大学・北陸先端科学技術大学院大学 4 大学合同の、中国・大連での3泊4日のトレーニー派遣プログラムが始まった。

まず富山空港の会議室で、結団式を行い、各大学の代表者が決意表明をした。自分は座って話を聞いているだけだったが、いよいよ中国での研修が始まるのだということを実感させられた。

結団式が終わり、出国審査などの手続きを経て、航空機にて中国・大連に移動した。

1枚目の写真は、航空機の窓から富山市を撮影したもので、2枚目の写真は、中国・大連を撮影したものである。比較してみると違いがよく分かるかもしれない。



大連に到着して、すぐバスで日本経済新聞社大連支局まで移動し、早速、日本経済新聞の記者である原島氏のセミナーを受けた。セミナーの内容は、日本と中国の違い、また中国の都市間の違いであった。質疑応答の時間もあり、学生たちは皆それぞれが疑問に思っていることを質問した。まさに国際社会の最前線で活躍している人の話を聞けるのは非常に貴重な機会だったので、自分を含む20人の学生は、真剣に話を聞いた。

夕食は、大連市内のレストランで東北地方の郷土料理をいただいた。その際、学生たちはそれぞれ自己紹介を行い、この研修における目標、参加理由などを発表した。

各テーブルでは、学生間、または学生と社会人の間でコミュニケーションが図られ、有意義な夕食会であったと思う。

初日は全員無事に研修を終えることができ、また各々がこの研修への意識を明確にするなど、有意義な1日となった。

文：理工学域機械工学類1年 宮園隼人

## トレーニー派遣（2日目）3月16日 木曜日

トレーニー派遣2日目はバス内での北陸銀行大連駐在員事務所所長の清水さんによるお話からスタートし、YKK株式会社とソフトバンクの日本企業2社の視察、ショッピングモールでの買い物、レストランにて食事、京劇鑑賞といった大変盛沢山な日程の中、私たちは様々なことを学ばせていただいた。

初めに、清水さんから現在の大連市の基本的な情報や中国経済が拡大してきた経緯、日系企業の中国進出の様子などについて説明を受けた。話の中で最も印象に残ったのは、中国は「世界の工場」と呼ばれていて、工場ではたくさんの人が作業をしているイメージがあるが、現在はロボット化が進み、工場は人件費の安い東南アジアへ進出しているという話である。中国は2010年から2015年にかけてGDPが2倍、人件費が5倍になったそうで、経済が拡大していく中でメリットもデメリットも出来たのだなと感じた。そして、工場のロボット化をぜひ YKK の工場見学で確かめよう、と少しわくわくした気持ちにもなった。

次に、YKK 株式会社を視察させていただいた。駐在員の川上さんからお話を伺った後、実際にファスナーを製造している工場を見学させていただいた。中国では富裕層ではないが貧困層でもない中間層の拡大が見込まれ、衣料品に関しても、主に中間層のニーズの多様・高度化が進んでいて、事業成長の見込みがあること、またそのニーズに合わせて製造を行っていることを学んだ。また、大連工場では、原材料から仕上げまでを一貫して生産する体制をとっていて、品質へのこだわりが伝わった。広大な工場内はほぼ全ての工程がロボット化されていた。3~5月の繁忙期には手動作業もあるそうだ。1200名ほどの従業員のうち、女性が7割を占めることにも驚いた。さらに、社内では利益向上のためのアイデアを募集したり、社内で従業員の表彰を行ったりしているという。これらの情報や、工場内で従業員の方々が話されている様子を見たことによって、駐在員や現地従業員など関係なく人と人の信頼関係を大事にしていることが伝わった。



YKK 株式会社



ソフトバンクの受付

YKK を出発して昼食をとった後、バスで 1 時間ほど移動し、ソフトバンクを視察させていただいた。日本でもよく見る Pepper くんに出迎えられ、“Masayoshi Son” という名前の部屋に案内されるという驚きのスタートであった。大連のオフィスでは、日本のソフトバンクショップの約 80%のバックオフィス業務を行っている。日本のショップで入力された登録情報が大連に送られ、現地スタッフによって処理されたのち、約 15 分で登録業務が完了するのだ。元々は日本国内にオフィスがあったのだが、品質を保ちながら人件費を下げ利益をあげるために、日本語が話せる人材が多い大連に移転したそうだ。また、国外での作業のため情報漏洩が懸念されるが、日本から大連まで国際専用線を引き、オフィスは 100%ペーパーレスでデータ端末もないため、1 度も情報漏洩が起こったことはないという。徹底したセキュリティ保護への工夫がなされていることに驚きつつ、これらの工夫のおかげで日系企業には信頼感が生まれているのだと感じた。

日系企業視察後は、ホテル近くのショッピングセンターで買い物をした。食品売り場では日本でもよく見るようなお菓子が中国語表記されて、たくさん売られていた。私はスターバックスコーヒーで大連限定のタンブラーを購入できたので満足であった。

その後「大清花」というレストランにて餃子料理をいただいた。皿数に圧倒されたが、どれもおいしいものばかりであった。また、トレーニー派遣のメンバーや北陸銀行の職員の方々との会話も弾んで楽しいひと時を送ることができた。

夕食後はオプションで雑技団の方々による京劇を鑑賞した。体を張った数々のパフォーマンスにメンバー皆ひたすら声をあげて驚いていた。

ホテルに戻った後、目まぐるしいスケジュールではあったが充実していて大変満足な 1 日であったと感じた。



雑技団のパフォーマンス



夕食の餃子料理

文：理工学域環境デザイン学類 1 年 梅林 舞

## トレニー派遣（3日目）3月17日金曜日

いよいよ研修最終日となった。今日は朝少し早めに起き、近くの公園へと向かってみた。中国人の朝は早く、公園内には多くの人で賑わっていた。散歩をする人もいれば、通勤の通り道としている人、伝統武術である槍術（六合大槍）や太極拳をしている人々もいた。私たちは太極拳を行っているグループに混ぜてもらい、見よう見まねで太極拳を体験してみた。初めて行ったが、体の芯からジーンと温まってくるのが実感できた。終わってからは、現地の方と会話を楽しみ、記念撮影をしてその場を離れた。朝から素敵な出会いがあり、とてもワクワクしながらお待ちかねの大連理工大学へと向かった。



一日目、二日目のスーツ姿とは打って変わり、今日は私服での訪問である。心なしかみんな緊張がほぐれているように見えた。大連理工大学に到着すると、とても大きな毛沢東の像が出迎えてくれた。大学はとてもきれいな建物だった。広い講義室で開会式が行われた。まず、大連理工大学の紹介ビデオが流れ、次に各大学の先生方と代表者の挨拶があり、最後に記念撮影が行われた。そして、いよいよ大連理工大学生との交流会が始まった。日本人学生3人と大連理工大学の学生3人ほどで1グループであった。私は中国語が話せなく心配だったが、大連理工大学の学生さんが日本語を上手に話してくれたため、言葉の壁を感じることなく、とても楽しい時間が過ごせた。私のグループではおもに大学生活について話し合った。大連理工大学は中国の難関大学の一つとされているため勉強ばかりしているイメージを持っていたが、実際は行事やクラブ活動も豊富で活発だった。現に、昼休みにはバスケットをしている様子を見ることができた。勉強に関して質問すると、その勉強量の多さに驚いた。具体的に、私とお話した学生は日本語の授業がある日は朝6時からその日のテスト勉強と予習を行い、授業では毎回最初に小



テストがあり、さらに放課後も図書館で勉強するそうだ。課題も多く、アルバイトをする暇はないと言っていた。こんなにも勉強し、知識を自分のものにしていくことに同じ大学生として悔しい・恥ずかしいと思った。さらに、自分も日本に帰ってから直ぐ勉強に取り組もうと考えた。とても良い刺激を得ることができた。また、連絡先を交換し合う仲にまでなれてとても嬉しかった。

午後からは203高地を訪れた。曇ってはいたが高台から見下ろすと港が見え、その地形はまさに侵攻の要だったことを感じた。また、東鶏冠山ではまさに激戦の跡を見ることができた。露軍の要塞に残る生々しい砲弾痕は自分の心に強く訴えかけるようでもあった。実際にここで起こった戦闘の激しさを感じて先人に思いを馳せ、今の平和について改めて考える機会となった。



夜は4大学合同の懇親会であった。大連で活躍されているOB,OGの方々と話していると今回の研修で得た様々な見識がさらに深まったり、異なる視点に気づくことができた。例えば昼に訪れた大連理工大学の学生についても、始めは意識や能力の高さにただ感心するだけであったが、これからはそのような世界中の人間と競い戦っていかなければならないということをOBの方との会話の中で痛感した。

最後には一人ひとりがスピーチを行った。それぞれ内容は異なっていたが、皆最初の夕食の自己紹介と比べて成長を感じる内容になっていたように思う。今回の研修で実際に見聞きした経験がそれぞれの課題、目標となり将来への展望を改めて抱くような、そんな実りある研修になったと感じた。



文：経済学類1年 上田佳奈、機械工学類1年 水越光輔